

令和3年度 社会福祉法人 双葉会 事業報告抜粋

1. 総括

今年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を迫られた1年となりました。

現在までの累計感染者数は寿楽荘職員6名、琴清苑職員1名、双葉会診療所職員1名、氷川保育園園児10名、職員5名(R4.3.31現在)となり、氷川保育園においては短期間の休園を求められる結果となりました。今後、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの安定した運営が求められる中、基本方針に掲げた「感染症や災害への対応力強化」を推進しました。また、人件費率改善を目的に賞与の0.4ヶ月分の減額を決定しました。

老人施設においては、入所稼働率は寿楽荘で90.9%、琴清苑で90.2%、短期入所事業では寿楽荘61.1%、琴清苑38.7%という結果であり、前述した感染症対策の影響により大幅に落ち込んでいるものの、感染症対策を強化し稼働率を上げるよう努めているところです。他にも処遇改善支援金手当の支給、高齢者虐待防止、身体拘束ゼロ、ハラスメント対策、職員の就労環境問題、看護・介護職の雇用対策等に取り組んでいるところです。

保育園については、町が力を入れている子育て支援施策の一つである保育料無料化の効果により園児数は増加傾向にあるものの、感染症対策の対応に苦慮した一年となりました。2月には保育士等処遇改善臨時加算の支給を決めました。

診療所については、施設利用者の重度化・町内の高齢化等により医師の業務が激増している中、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の周知徹底に努めました。今後、医師の健康状況も考慮し、非常勤医師の増員等も視野に入れ新型コロナウイルス感染症ワクチン接種、PCR検査等を含め体制強化を図って行きます。

双葉会診療所 事業報告抜粋

1. 総括

今年度も引き続き経営の安定化「経営コストの見直し」「診療所の環境改善」新規購入機器等による入院患者等の入院環境の向上に努め、新型コロナウイルス感染症予防対策強化に努めると共に寿楽荘と協調し相互予防に努める。引続きの緊急課題としては看護師、看護補助員、事務員など職種に関係なく慢性的な人手不足となり早期に雇用の確保を図りたい。また、同じように医師確保に向けた取組みを寿楽荘と共同で進め医師確保を早急に図りたい。入院患者については職員の確保が儘ならぬ状況に於いて減少傾向は仕方なく、また、外来患者は新型コロナウイルス感染症等による微増であり新たな疾病による新規外来患者の来院ではなくその点が危惧される処である。

上記のようなことから考えれば現状の医療の提供については医師をはじめとする全ての職員の協力、創意工夫で診療所の地域における医療の提供先としての役割や理念を忘れずに維持をしている結果が安定的な収入確保に繋がっていると考えられる。診療所設備の更新については前年度からの計画が有った空調機の更新工事が終了し快適な生活空間の確保が出来るようになった。

寿楽荘 事業報告抜粋

1. 総括

ショートステイ事業もあわせた年間稼働率87.2%は収益分岐点ともいわれる95%とは大きな隔たりがあり、運営的には大変厳しい年度となった。主な原因は新型コロナウイルスによる新規受け入れの停止であり、4年度計画にも挙げた通りリスクを負いながらも新規受け入れは行っていきたい。

新型コロナウイルスが収束しないなか職員6名が罹患してしまったが、利用者及び職員間での感染拡大を予防出来たことは、職員の日頃からの予防意識の高さの表れと捉えている。今後も感染症・災害時対策としてBCP(業務継続計画)による緊急連絡訓練や防護衣着脱訓練、汚染ゾーン・非汚染ゾーンの明確化等の活動は継続していく。

昨年度の陰圧装置に続き、都の「高齢者施設等の感染症対策設備整備推進事業」により「ブース型家族面会室」を設置できたことで、利用者・ご家族に安心してご面会いただける環境の整備ができた。

業務改善計画に基づく取り組みは、委員会をはじめ多くの職員の協力により着実に遂行しています。奥多摩町へ提出した「養介護施設従事者による利用者虐待に関する改善計画書に対する第2回実施状況報告書」に対するモニタリング結果においても一定の評価を頂くことができましたので、慢心することなく町の指導・助言をうけながら更なる改善を目指します。

EPA介護福祉士候補生は1名が合格し介護福祉士となった。残る1名も試験で実力が発揮できれば十分合格圏内にあるので来年に期待したい。技能実習生1期生は業務・生活両面とも安定しており、2期生の環境順応へのサポートも期待している。

琴清苑 事業報告抜粋

1. 総括

令和3年度より、新しい施設での運営が開始されました。新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が4月20日から6月20日まで出され、一旦落ち着いたものの7月12日から9月30日まで再び宣言される事態になりました。その後もオミクロン株の流行により1月8日から3月21日まで蔓延防止等重点措置がとられ、新施設での新規入所が順調に進むことが出来ず、年度末まで施設稼働率が上向きにならず、収入が伸びず苦しい運営となりました。具体的な数字では稼働率が90.15%と低い数字になってしまいました。前施設での定員より9名増員しておりますので、前施設での稼働率は比べられませんでしたが低い数字になってしまいました。今年度中に稼働率上昇の対策として年度末から入所時の抗原検査や送迎の実施を進め、次年度早い時期の定員満床に向けての体制を整備することが出来ました。短期生活介護事業につきましても38.68%の稼働率で推移してまいりました。前年と変わらず低い稼働率でした。短期生活介護事業につきましても年度後半の利用実績が増えたことが、次年度への展望につながりました。また、コロナウイルス感染症対策として、支出の増加も現実の問題として表面化してまいりました。衛生費の増加も補助には頼れず、施設稼働率を上げ収入を増やすことによる対処しかないことが現実の事として確認できました。

慢性的な人材不足につきましては、EPA介護福祉士候補生が年度内3名来苑し、新規職員の採用も進み人員が増え業務が安定して来苑しました。また、外国人技能実習生4名も、次年度10月以降、特定技能実習生として就労することになり、さらに次年度初めに3名の外国人技能実習生が就労することが決まり、人員増加によりさらなる業務の安定化が図られることとなります。

1フロア-4ユニットに別れた業務については、年度中頃までに各介護職員慣れて、ユニットに分かれた、個別ケアの業務が実施されるようになってまいりました。利用者のプライバシーを守り、機能的な動きが取れるようになることにより、次年度もさらなる業務の精通に努めて参ります。

氷川保育園 事業報告抜粋

1. 事業概況

令和3年度は、昨年に引き続きコロナ感染対策を徹底した保育となりました。感染リスクを考え、遠足・行事・園庭遊びなど多くの制限を必要とする保育となりました。

施設整備では、防犯安全対策として園庭のブロック塀をアルミ製の防音壁に改修をして園児の安全と環境の整備に努めました。

業務意識改革として、昨年に引き続き過去の振り返りではなく、過去の積み重ねから、「どう未来を構築するか」に考え方を変えるよう取り組みましたが、長年染みついた、「昔は」、「今までは」、「うちの施設は」と言うフレーズがいまだに聴かれ、新しい職員が意見をしにくい環境があります。事業所内の組織図や職務の役割を再確認して、職種を問わず意見を出しあえる環境作りに努めました。

運営状況では、感染予防を第一に予算の執行に努めました。また、2月には、コロナ感染予防として、園内での感染が確認されたことから、町と協議の結果、1週間の臨時休園となりました。